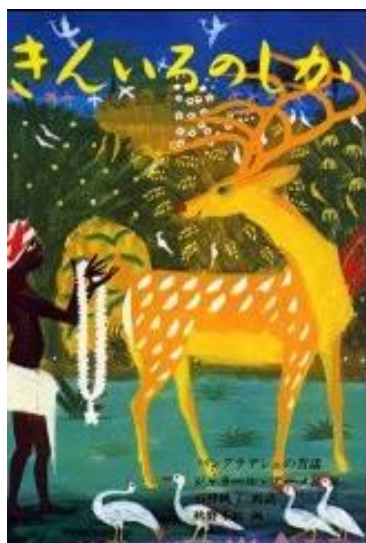


～読んでみない？こんな本～

きんいろのしか バングラデシュの昔話

ジャラルール・アーメド 案 石井桃子再話 福音館書店

秋野不矩 画



むかし、グリスタンと呼ばれた国にひとりの王様がいました。王様は金きんが大好きで国中の金きんを御殿の蔵に集めさせ、独り占めにしていました。ある日、王様が家来を連れて狩りに行くと森の奥で金色に輝く鹿を見つけたのですが逃げられてしまいます。王様は追う途中で鹿をかばった少年ホセンに捕まえてくるよう命じ、捕まえなければお前の命はないと言い放ちます。途方に暮れるホセン。とにかく探しに行くよう飼っている動物達に励まされ、鹿の逃げた西のほうへ出かけました。1日歩いても鹿は見つからず、それでも持ち前の勇気と優しさで苦難を乗り越えていき、とうとう鹿の住むところまでたどり着いたのですが…。

この本は最近再販されたのですが、日本画家の秋野不矩氏が絵を描いており、絵本を開くと牛たちのあたたかさや少年の優しさ、鹿の力強さなどはもちろん、背景の美しさも読み手にはっきり伝わってきます。秋野氏はインドの風土などをモチーフに作品を描かれており、この絵本からもインドに対する愛情が伝わってくるようで絵に対する不自然さが感じられません。石井桃子氏のやわらかく無駄のない文章と重なってお話を一層素敵なものにしている、幅広い年齢の子を引きつける絵本だと思います。